鹿児島県歴史・美術センター黎明館
「ほこらしゃ奄美～海と山の織りなすシマの世界～」

開催期間：２０２１年１０月１日（金）～２０２１年１１月７日（日）

企画特別展の開催状況１

企画特別展の開催状況２

関連行事（ワークショップ）

関連行事（出前講座）

【企画展の内容・目的】

■　古代や中世における海上交易や海への信仰、漁業や人々の生活などに光を当て、海に育まれ、人々が受け継いできた文化を「ほこらしゃ（誇らしい、素晴らしい、嬉しいという意味の方言）」と呼び、紹介する。

■　海と生きてきた人々の文化を貿易陶磁や漁具、奄美の海について記した資料や島唄、伝統的民俗行事などの展示をとおして、奄美の歴史と文化が、どれほど深く海とつながっているのかということを再認識する機会とする。

■　地元奄美での３つの講座やワークショップ、講演会等をとおして、次世代を担う高校生や海に親しむ機会が少ない障がい児・者など幅広く地域の海について学ぶ機会とし、人と海との距離を近づける。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

１．企画展示の内容

■開催期間：２０２１年１０月１日（金）～２０２１年１１月７日（日）

■開催場所：鹿児島県歴史・美術センター黎明館　第２特別展示室

■入場者数：４，４７７人

鹿児島県歴史・美術センター黎明館　外観

企画特別展会場　入口

プロローグ　展示の様子

展示解説の様子

音声ガイドの貸出

展示解説資料の配布

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

１　プロローグ　奄美への誘い

日本画家田中一村の代表的な「アダンと小舟」などの作品、サンゴの標本、奄美の海を紹介する写真パネルなどの展示をとおして、文化を育んだ豊かな海の情景を紹介し、人々の生活が海と密接に関わり、海と共生してきたことを感じ取れるようにした。

会場入口で、音声ガイドの貸出を行い、展示の分かりやすい解説や展示に関連した島唄 10 曲を聴けるようにした。

また、章ごとに小・中学生向けのワークシートを含む展示解説資料を会場入口で配布し、展示の内容を深められるようにした。

第１章　展示の様子

第１章　展示の様子

ヤコウガイの加工についての展示

カムィヤキ、倉木崎海底遺跡出土品の展示

２　第１章　琉球弧をつなぐ海上の道

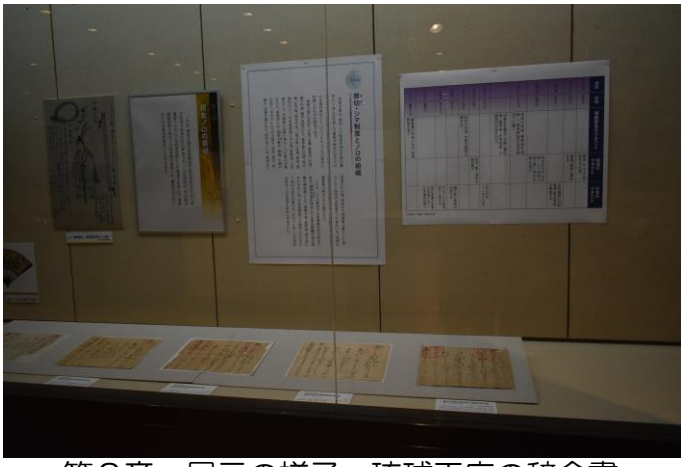
南九州から南西諸島にかけての島々（琉球弧）を舞台に展開した、７世紀～１４世紀の活発な海上の交流について、ヤコウガイの貝匙やカムィヤキ、倉木崎海底遺跡出土の貿易陶磁器などを展示し、古代より人々に海が利用され、海上交流が行われてきたことを紹介した。

展示解説資料で、出土地などを地図に示し、広域に渡って人やモノなどが移動した様子を分かりやすく紹介した。

出土資料のヤコウガイ貝匙に関連して、ヤコウガイの加工前のもの、加工する部分を磨いて示したもの、加工後のものを並べて展示することで、貝を加工した古代の人々の高度な技術を知るとともに、古代から人々に海が利用されてきたことを理解できるようにした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

第２章　展示の様子　ノロの衣装と道具



第２章　展示の様子　琉球王府の辞令書

おもろそうしの展示

ノロの祭祀と海の信仰についてのパネル展示

３　第２章　琉球王国と祝女の祈り

琉球王国で編纂された歌謡集「おもろそうし」の中から、奄美の海を渡る人々を謡った「おもろ」を取り上げ、謡われた地名や航海の道標とした「山あて」について紹介した。

海の彼方から神を迎え、海へ神を送るオムケとオーホリの祭祀を写真パネルで展示し、琉球から女性祭祀者ノロとともに奄美に伝わった海の信仰を紹介した。

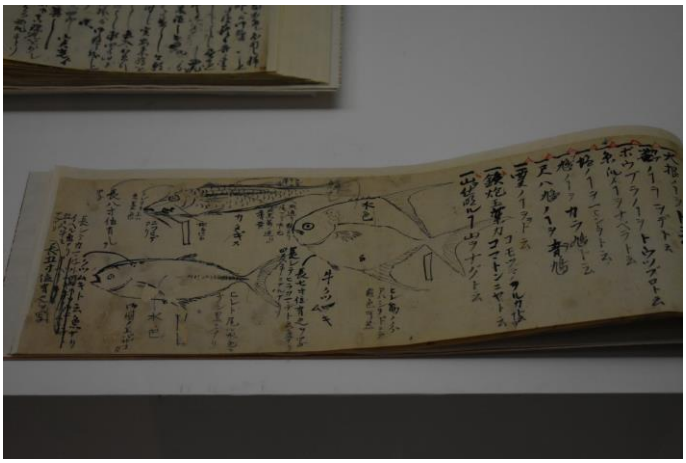
音声ガイドでは、島唄のヨイスラ節を紹介し、航海を見守る姉妹神（うなり神）や白装束のノロが歌い込まれていることをパネルで解説することで、海の信仰を感じ取れるようにした。

第３章　展示の様子　砂糖生産の道具

大島古図の展示

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

薩琉海路図の展示



南島雑話下絵の展示

４　第３章　サトウキビのざわめき

近世から近代にかけての砂糖生産と、それに伴う人々の海の利用や生活の変化、砂糖の運搬に関わる海商の活動などについて紹介した。

大型のサタグルマをはじめとする砂糖生産の道具を展示し、昔は砂糖作りで不純物を取り除くための石灰として身近なサンゴを焼いて使用していたことなど、砂糖生産に海の利用が欠かせなかったことを紹介した。

幕末に島津斉彬が海岸防衛のために作らせた巨大な地図「大島古図」を、四方から見ることのできる特別ケースに展示し、海岸線とシマ（集落）の形成、当時の海を守る意識について知ることができるようにした。

展示解説資料に古文書の釈文を掲載して、船の積み荷や配船の内容を示すことで、砂糖生産と海商の活動の関係や海商たちの知恵を理解できるようにした。

第４章　展示の様子　琉球嶌真景絵巻

映像コーナー

島やシマ（集落）ごとに異なる漁具の展示

奄美の海の利用について紹介した展示

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

５　第４章　島とシマの世界

江戸時代後期に描かれた 13 メートルに及ぶ琉球嶌真景絵巻の全場面を一堂に見ることができる特別ケースを用意し、海と深くつながった人々の生活の様子を様々な場面から紹介した。

奄美の伝統行事を紹介する映像コーナーを設け、海の信仰、島々やシマ（集落）ごとに特色のある踊りや行事、文化の交流について分かりやすく紹介し、海に息づいた奄美の人々の文化への関心を高めるようにした。

島ごとに形の異なる漁師籠や、島や地域ごとに特色のある漁法や漁具を展示し、接する海の環境に応じて、地域ごとに特色ある海の利用が行われてきたことを紹介した。

食文化を紹介するコーナーで、古文書などの展示をとおして、奄美の豚食が近世に海を越えて伝播し、明治以降に日本全国へ広まったことなど、海を介した食文化の広がりについて知ることができるようにした。

エピローグ　展示の様子

民俗行事等の写真パネル展示

海の利用と社会の変化についての展示

アンケート記入スペース

６　エピローグ　現代の奄美

戦後から現代までの生活スタイルや社会の変化の中で、伝統的な民俗行事や文化が変容しながら受け継がれてきた様子を写真パネルなどで紹介した。琉球嶌真景絵巻や「南島雑話」に描かれたハレコギが、現代の舟こぎ競争に受け継がれ、人々が海に親しむ様子を紹介した。

サーフィンやダイビングなど奄美の豊かな海がレジャーや観光面から受容され、これらを目的にＩターンで移住した人々やその子どもたちが、シマ（集落）の年中行事や伝統文化の新たな担い手として加わっていることをコラムパネルや島唄をとおして紹介し、新しい海の利用や、海を介した社会の変化について知ることができるようにした。

会場内に、アンケート記入スペースを設け、多くの来館者にアンケート記入に御協力いただいた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

１階ロビー　ロビー展示全景

パネル展示の様子１

パネル展示の様子２

特別支援学校の関連作品の展示

ロビー展示

　会期中、ロビー内に特設コーナーを設け、付帯事業として奄美で実施した３つのイベントの開催状況をパネルで紹介した。

　ワークショップで作成したペン立ての写真のほか、特別支援学校の生徒がサンゴやシーグラス、貝殻を使って作成した作品を展示した。ロビー展示の様子は、写真をとおして生徒に見てもらい、作品や活動風景の掲出をとおして、生徒の自己肯定感や意欲を高められるようにした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【来館者の声】

一番よかった展示

○　島独自の民具、漁具
○　航海の地図
○　疑似餌
○　丸木舟
○　琉球嶌真景絵巻
○　大嶋古図
○　平瀬マンカイの映像
○　海（海岸）で行う神事、行事の展示
○　田中一村の絵画
○　倉木崎海底遺跡の出土品
○　音声ガイドの島唄

「海」について感じたり学んだりしたこと

○　祝女ノロの祭祀について勉強になった。
○　幼き頃、祖父がソーラ（サワラ）突きをした光景を思い出した。
○　実際に使用されていた道具を近くで見ることができた。
○　これまで知らなかった島のことを学べた。
○　奄美の海は豊かだと感じた。
○　ハマオレや赤子の足付けなど昔からの行事、風俗が行われていることを知った。
○　多くの民具、文書、絵などを豊富に集めて展示されていることに興味をもった。
○　解説が詳しく、分かりやすく、勉強になった。奄美人として再び目と心を向ける機会ができた。
○　昔の人がとても海を大事にしていたことを強く感じた。これからも大切にしていきたい。また、ゴミの問題も考えた。昔から自然にかえる道具を使っている。
○　奄美の海の美しさを残してほしい。昔（子どもの頃）は白砂がきれいだった。
○　島の人々と海との関連性を学ぶことができた。
○　海を隔てた琉球とのつながり、薩摩とのつながりを感じ、海洋民族であることを感じた。
○　もっと海について知りたくなった。
○　現代においても人々と海の関わりが密接であることを改めて学べた。
○　海図を見ると島は海で隔てられているのではなく、海こそが道なのだと感じ取れた。
○　奄美の人々の生活と「海」が密接に結びついているところが感じられた。
○　奄美の歴史の一端を知り、奄美に行きたくなった。
○　海をとても大切にしているのだなと感じ、今、世界で失われつつある海を大切にしていきたい。
○　海をとおして、奄美には様々な文化が入ってきたことを学んだ。
○　海をきれいにして島の景観を守っていけたらいいなと思った。
○　持続可能な環境を守ることが大事だと思う。
○　鹿児島は特に広い海域に囲まれた県なので、海からの恩恵をたくさん受けている。プラスチックゴミのことなど、海を大事に守っていかなければならないと思う。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

２．関連事業の内容

■ワークショップ「わきゃ海の恵みについて知ろう」

【開催日時】２０２１年5月１４日（金）　９：４５ ～ １４：３０

【開催場所】鹿児島県立大島養護学校
【参加者数】１９人
【実施内容・目的】

- 海に親しむ機会の少ない障がいのある子どもたちに海の恵みを実感してもらい、海を守る意識を育むことを目標に、地元の特別支援学校でワークショップを実施した。
- 奄美の海や私たちと海の関わりについて知るとともに、近くの浜辺で拾ったサンゴを使って、ペン立てや箸置きを作成した。また、オンラインで奄美大島の大島養護学校と、喜界島と沖永良部島の同校支援教室をつなぎ、交流しながら地域の海について学ぶ機会とした。

開催場所

集合写真

ワークショップの様子

ワークショップの様子

古代の交易品であったヤコウガイと関連して、現代の奄美で福祉事業所などが作っているヤコウガイのアクセサリーを紹介し、身近な海の利用について学んだ。

また、海岸で拾ったペットボトルなどのゴミから海洋汚染の問題について知り、福祉施設が行っている海岸清掃を紹介して、生徒の進路と関連させながら海を守る大切さについて考えた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

ペン立て作りの様子

ペン立て作りの様子

オンラインでの参加の様子

発表の様子

近くの浜辺で拾ったサンゴや貝殻、シーグラスを使い、友達と協力しながらペン立てを作成した。サンゴとサンゴを打って音を鳴らし、その音を楽しみながら、海に親しみをもつ生徒もいた。海について学んだことや考えたことなどをワークシートにまとめ、一人ずつ発表して、学習を振り返った。

【参加者の声】

○　サンゴのペン立て、箸置き作りが楽しかった。
○　サンゴを使って自分が思う作品を作ることができた。
○　ヤコウガイを磨くときれいになるのを初めて知った。
○　サンゴがきれいだった。
○　海が汚れていたりゴミがたくさんあったりしてとても悲しいと思った。
○　私たちでゴミを拾ってきれいにしたい。
○　海には、いろいろな所からの漂流物が多かった。きれいな海を守りたいと思った。
○　海を汚さないように海岸清掃もしていきたい。
○　奄美の海の美しさは、ほかのどこにもない美しさがある。当たり前でなく、しっかり守っていくことの大切さを感じた。
○　奄美の海の豊かさ、恵みについて、理解が深まった。生徒たちは初めて知ることも多く、とてもいい学習の機会となった。
○　海の環境問題を考えつつ、身近な海の産物のサンゴを使っての作品作りは、海の自然に触れることなのでよかったと思う。
○　海の大切さもだが、生徒が自分たちの住む所の海を愛していることが分かった。学習として大島の自然に親しみながら様々な学習をしていくことが本当は大切なのではないかと思う。
○　SDGｓの取り組みも盛んになってきている。海のゴミを使って～～の活動の様子についても見る機会があり、いろいろな方面から海について考える時間になった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■講座　ほこらしゃ奄美 in 瀬戸内「海の民俗を語る」

【開催日時】２０２１年7月１１日（日）　１３：００ ～ １５：４０

【開催場所】瀬戸内町立図書館・郷土館
【参加者数】５０人
【実施内容・目的】

- 地域の海に関わる資料や伝統文化への関心を高め、地域の海への親しみをもつことを目標に、地元で講座を実施した。
- 海と人々の関わりについて、５人の講師が奄美の海をいろいろな角度から語り、海と生活や文化の結びつきについて再認識する機会とした。
- 講座に合わせて瀬戸内町立図書館・郷土館と連携し、ミニ企画展を開催した。企画特別展に出陳予定の資料を展示し、企画特別展への関心や期待感を高めることもねらった。

開催場所

会場の様子

講座の様子

講座の様子

５人の講師が「南島雑話」を素材とした近世の海の利用、焼内湾の海辺で行われる待網漁や旧暦三月三日の伝統行事、イカ餌木から見た文化の伝播と鹿児島・奄美のつながり、大島海峡周辺のイザリやカキ漁（石干見）の過去と現在、海岸風景にまつわる伝承とその背景について紹介し、地域の海とつながる人々の生活について学んだ。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

講座の様子

講座の様子

ミニ企画展の様子

展示解説の様子

瀬戸内町立図書館・郷土館と連携し、ミニ企画展「魚のだまし方いろいろ―鹿児島の餌木文化」を開催した。黎明館から企画特別展に出陳予定の漁具などを貸出し、展示した。講座当日は展示解説も行い、実物資料から講座の内容を深めるとともに、地域の海に関わる資料や伝統文化への関心をもってもらう機会となった。

【参加者の声】

○　カキ（石干見）があんなに身近なものだとは知らなかった。
○　イカエギの話は、すごく新鮮なお話で面白かった。
○　それぞれ専門的な話を聞くことができ、興味深かった。
○　多方面にわたる海との関わりの話があり、参考になった。
○　奄美大島でも（講座・展示が）開催されたことが何よりも素晴らしいと思う。
○　海と人々の生活がとても身近なものであったことを感じた。
○　こんなにたくさんの漁法が島にあったことを知り、興味深かった。
○　海にまつわる歴史は、地域の資源だと感じた。
○　講座の後に、実際にエギを見ながら解説があったのが良かった。実物を見ることで学びが深まった気がする。
○　エギングを初めて行ったあとだったので、木のエギが魅力的だった。
○　海は、独立して「海」ではなく、山、森、木、里、人とつながっていることがよく分かった。例えば「エギ」では、木（イジュ、アカギ）があってこそ。海が海であることは、人がいてこそ！！海を守る人、自然を守る人いてこそ。
○　昔に比べて海へ行く機会が減ったので、再び海へ行きたいと思った。
○　島に住んでいながら、海の側に住んでいるが、今までほとんど無関心だった。これからは、もう少し目を向けていけたらと思う。
○　シンプルに見える「海」、とても見方がかわった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■出前講座「海を渡った疑似餌」

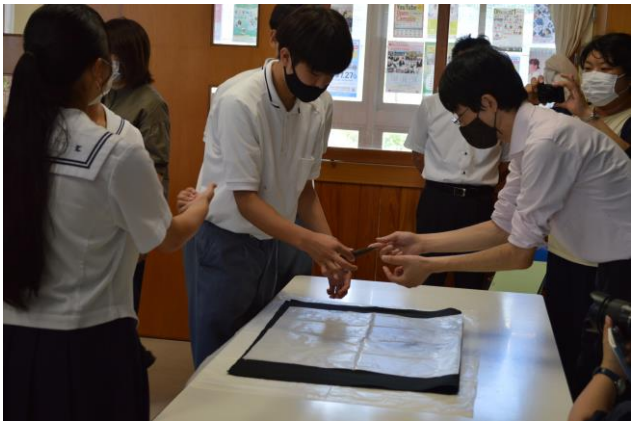
【開催日時】２０２１年7月１３日（火）　１３：５０ ～ １５：４０

【開催場所】鹿児島県立古仁屋高等学校
【参加者数】３２人
【実施内容・目的】

- イカエギなどの疑似餌を素材に、地域の海に親しみをもつとともに、文化の多様性と共通性に気付き、人々がどのように海と関わり、海を利用してきたかについて学ぶことを目標に、出前講座を実施した。
- 高等学校の郷土学習と連携した出前講座として実施し、次世代を担う高校生が地域の海に親しみをもち、海を守っていく意識を高めるとともに、博物館利用の促進につなげることもねらった。

開催場所

会場の様子



イカエギを観察する様子

解説する様子

学芸員に資料の扱い方を教えてもらい、明治時代に使われたイカエギを手に取って観察した。余暇にエギング（イカ釣り）を楽しんでいる生徒も多く、イカエギの歴史や成り立ちを学ぶなかで、地域の海を利用してきた先人の知恵が現代のエギングにつながっていることに驚く様子も見られた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

考察の様子

理解を促す様子

発表の様子

集合写真

実物資料や写真を比較し、仮説を立てながら、鹿児島県内各地のイカエギの特徴や変遷を確認し、地域ごとの文化の共通性や違いを考え、地域の海がどのように利用されてきたのかを学んだ。

【参加者の声】

○　昔のエギに直接触れることができたので、よい体験になった。
○　実際に見て、触らせてもらい、写真だけじゃ分からないことも学べて良かった。
○　先人の方たちがいろいろな工夫をして魚釣りをしていたことが分かった。
○　昔の人々の生活にも海がとても関わっていることに気付いた。
○　何百年昔のことでも今につながっていて、すごいと思った。この先もつなげていけるよう、私たちができることを頑張りたいと思った。
○　昔から今にかけて、道具の形や色の模様などが少しずつ変わっていることに感動した。
○　海といっても単に一つではなく、海という自然も含めて、海にかかわるもの全てを大切にしていくことが大切だと思った。
○　海にも深い歴史があり、もっと学びたい。
○　昔の人たちが築き上げてきた大切な海や文化を、今の自分たちがちゃんと受け継いでいけるような島や人になりたい。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■展示解説講座「ほこらしゃ奄美の世界」

【開催日時】２０２１年１０月９日（土）　１３：３０ ～ １５：００

【開催場所】鹿児島県歴史・美術センター黎明館　講堂

【参加者数】５９人

【実施内容・目的】

- 展示の全体について、展示担当者が見所や資料の面白さを分かりやすく解説し、奄美の海に関わる展示資料に興味をもち、海に親しみをもつことを目的に、解説講座を実施した。
- 奄美大島で行った３つの付帯事業の活動を紹介することで、「海の学び」を広く発信した。

受付

展示解説講座の様子

展示解説講座の様子

展示解説講座の様子

展示資料や地図などを大型スクリーンに投影しながら、資料の特徴や背景などを分かりやすく紹介した。海岸地形などの写真をとおして、文化の多様性に富む島やシマ（集落）の空間を解説し、奄美の人々の生活が海と深く結びついていること、そして島やシマごとに面する海との関わりで漁法や漁具などに違いが見られることなどを紹介した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【来館者の声】

◯　奄美の文化、歴史など詳しく知ることができた。

◯　様々な展示品を見たことで昔の生活や時代の流れを知ることができた。また、海によって昔の生活が成り立っていたということを知ったので、海を大切にしたい。

◯　海の近くに生活する人々の文化などが知れて良かった。

◯　奄美の海は場所や時間によってさまざまな表情を見せてくれることを学んだ。

◯　「海」という物理的な隔たりがあるのにもかかわらず遠く離れた土地と交流ができたのは海運ができること、「海」があるからこそ。山の幸に恵まれない土地も富めることができることを学び、やはり「海」は素晴らしいと思った。

◯　海からの文化の交流が広まったことを感じた。

◯　奄美の人々にとって海とは暮らし、生活、人生そのもの。大事にしたい思いが伝わりました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■記念講演会

【開催日時】Ⅰ　２０２１年１０月１６日（土）　１３：３０ ～ １５：００
　　Ⅱ　２０２１年１０月２３日（土）　１３：３０ ～ １５：００
　　Ⅲ　２０２１年１０月３０日（土）　１３：３０ ～ １５：００
【開催場所】鹿児島県歴史・美術センター黎明館　講堂
【参加者数】１４０人
【実施内容・目的】

- 考古（第１章と関連）、民俗（第２章と関連）、島唄（第４章と関連）の各分野の専門家による、最新の研究成果に基づいた講演をとおして、展示内容と、地域の海の歴史や文化の理解を深めることを目標に講演会を実施した。
- 海によって文化が運ばれ、独自に発展し、育まれていく歴史や過程を学び、次世代への継承すべき奄美文化の大切さを知る機会とした。

受付

館長挨拶

記念講演会Ⅰの様子

記念講演会Ⅰの様子

記念講演会Ⅰでは、「文化の窓口―奄美―」というテーマで、熊本大学埋蔵文化財調査センター助教の新里亮人氏に、講演していただいた。琉球列島の海を介した文化の移動やつながりについて、大型スクリーンに地図や具体的な考古遺物や遺構などの写真を投影しながら、最新の研究成果をもとに分かりやすく学んだ。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

記念講演会Ⅱの様子

記念講演会Ⅱの様子

記念講演会Ⅱでは、「奄美の民俗―祈りのデザイン―」というテーマで、瀬戸内町立図書館・郷土館学芸員の町健次郎氏に、講演していただいた。大型スクリーンに写真などを投影しながら、海の彼方から神を迎えて送るオムケとオーホリなどのノロ祭祀、舟の舳先の模様などの事例を分かりやすく紹介し、海と人々の信仰などについて学んだ。

記念講演会Ⅲの様子

記念講演会Ⅲの様子

記念講演会Ⅲでは、「奄美の島唄と踊りの系譜」というテーマで、鹿児島純心女子短期大学名誉教授の小川学夫氏に、講演していただいた。実際に島唄のテープを流して聞き比べながら、唄の系譜を解説いただき、海を越えた唄や踊りなどの文化の交流、海の信仰と深いつながりのある島唄の背景などについて分かりやすく学んだ。

【来館者の声】

○　奄美群島における遺跡、土器文化などが、こんなに充実していたことを知らなかった。また、九州と沖縄の文化の重要な中継地点、拠点であったことも学ぶことができた。
○　喜界島出身の私としては、我がふるさとが文化の窓口であったことに驚き、誇りに思う。
○　講演から奄美を思い、海を感じた。
○　海でつながっていること。海で隔てられていること。海に向けて祈りをささげる姿は敬虔で厳かだ。
○　島唄のテープを聞くことができ、奄美を感じることができた。
○　いつまでも残したい大自然です。豊かな海に感謝！
○　海と山、奄美の文化の関わりがよく分かった。
○　小さい頃から慣れ親しんできた海は、当然無くてはならない大自然。そこからの恩恵は計り知れないものがあります。いつまでもきれいな海のまま残したいものです。
○　本土との距離を感じる（文化の違いから）。きれいな海を守ることが大切であると思う。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【事業全体のまとめ】

本企画特別展は、奄美群島の歴史と文化に光を当て、その源流を探り、受け継がれた文化を「ほこらしゃ」として紹介し、奄美の歴史と文化がどれほど深く海とつながっているのかということを再認識する機会となった。本サポート事業を活用したことによって、展覧会内容の充実はもとより、地元地域における教育機関等と連携した関連事業を実施することができた。

展覧会においては、沖縄や奄美群島の島々、東京などから国宝や重要文化財１３点、田中一村の絵画作品１１点を含む貴重な資料１２８点を借用することができ、館有資料と合わせて総展示資料数２２０点の質・量ともに充実した展示になった。また、幕末に島津斉彬が海防のために作らせた巨大な「大島古図」、江戸時代後期の奄美大島の風俗を描いた１３メートルに及ぶ「琉球嶌真景絵巻」の全場面を一堂に見ることができる特別ケース等を製作し、これに展示したことで、じっくりと細部まで鑑賞する来場者が多く見られた。特設した映像コーナーでは、映像で奄美の伝統行事を分かりやすく紹介し、大人だけでなく子どもからも好評であった。場内に島唄の BGM を流して奄美の雰囲気を味わえるように工夫したほか、貸出音声ガイドで展示に関連した１０曲の島唄を試聴できるようにし、海と深く関わり、島やシマ（集落）ごとに特色のある奄美文化の理解を促すことができた。来場者からは、奄美の海の豊かさや、人々と海の密接な関わりを学び、海を大切にしていきたいといった感想が寄せられた。

関連事業では、例年展覧会会期中に行う、講演会や展示解説講座に加え、会期前に、地元地域の特別支援学校や高等学校と連携したワークショップと出前講座、地元地域の資料館での出張講座を実施し、次世代を担う高校生や海に親しむ機会が少ない障がい児・者、地元の方々などが幅広く地域の海について学ぶ機会とした。参加者からは、地域の海に親しんだり、海と人々の関わりを知ったり、海を再認識したりすることができたといった感想が寄せられた。

コロナ禍の中で、開催に当たりいろいろな困難を伴ったが、概ね所期の目的を達成し、充実した事業を展開することができた。

３．主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
１．鹿児島県立大島養護学校	ワークショップの実施協力
２．鹿児島県立古仁屋高等学校	出前授業の実施協力
３．瀬戸内町立図書館・郷土館	出張講座の実施協力、ミニ企画展の実施協力、ノロ関係資料などの借用
４．奄美市立奄美博物館	名越左源太遠島録などの借用
５．龍郷町教育委員会	ヒラキ山遺跡出土資料などの借用
６．宇検村教育委員会	倉木崎海底遺跡出土資料などの借用，民俗映像の提供
７．田中一村記念美術館	田中一村作品の借用
８．喜界町教育委員会	城久遺跡群出土資料などの借用
９．徳之島町郷土資料館	ノロ関係資料などの借用
10．伊仙町歴史民俗資料館	ウキダルなどの借用

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

ウェブ公開用ページ

11．沖縄県立博物館・美術館	おもろそうしの借用
12．名護市立名護博物館	琉球嵩真景絵巻の借用
13．鹿児島県立図書館	大嶋古図などの借用
14．鹿児島大学附属図書館	南島雑話などの借用
15．長島町歴史民俗資料館	千竈時家譲状の借用
16．阿久根市郷土資料館	道之島船賦などの借用
17．東京大学史料編纂所	南島雑話などの借用

4．主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1．南海日日新聞	群島の海の民俗講座　専門家が漁具や祭事など語る、2021 年７月 13 日
2．奄美新聞	「海の民俗を語る」瀬戸内町立図書館・郷土館で、2021 年７月 13 日
3．南海日日新聞	餌木から暮らしや交流探る　黎明館学芸員が出前授業、2021 年7月 15 日
4．MBC 南日本放送（テレビ）	「ニューズナウ」、2021 年 10 月 1 日 18:00
5．南日本新聞	奄美文化 奥深さ知って「ほこらしゃ」展開幕、2021 年 10 月２日
6．南海日日新聞	島々の歴史や文化を紹介 「ほこらしゃ奄美」始まる、2021 年 10 月２日
7．NHK 鹿児島放送局（テレビ）	「ニュース」、2021 年 10 月５日 12:15
8．MBC 南日本放送（ラジオ）	「あまみじかん」、2021 年 10 月９日 13:00～13:30
9．南日本新聞	多様な文化紹介 黎明館・ほこらしゃ奄美展解説講座、2021 年 10 月 10 日
10．朝日新聞	奄美の「シマ」多様性のモザイク　鹿児島で特別展、2021 年 10 月 13 日
11．南日本新聞	南風録（新聞１面コラム欄）、2021 年 10 月 14 日
12．南日本新聞	黎明館企画特別展「ほこらしゃ奄美」息づく島の誇り、2021 年 10 月 22 日
13．読売新聞	奄美文化独自に育む 鹿児島で特別展 琉球と薩摩の支配影響、2021 年 10 月 23 日
14．南日本新聞	かごしま文化を語る 八月踊りにみる多様性、2021 年 10 月 29 日
15．南日本新聞	編集局日誌 一村が描いた奄美、2021 年 11 月１日
16．南日本新聞	かごしま文化を語る 絵画資料が伝えるもの、2021 年 11 月３日

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。